

宗像 1 号墳

宗像 1 号墳は、米子市宗像の宗形神社の裏山に前方後円墳 3 基、円墳 2 1 基が密集した古墳群があります。その中で最大規模を持つ前方後円墳が宗像 1 号墳（全長 37 m、高さ 6 m）です。

昭和 28 年（1953）に調査され、埋葬施設は後円部に位置する 2 基の横穴式石室であることが判明しました。

前方部寄りの A 石室は、玄室の長さ 3.3 m、奥壁幅 2.1 m、高さ 1.5 m の横穴式石室です。石室内からは多数の須恵器と共に円頭柄頭、直刀、鉄銚、鉄鍬、金銅製の帯金具、耳環、勾玉、切子玉、管玉、小玉、鈴付雲珠、刀子などの副葬品が発見されています。これらの遺物から 6 世紀後葉の築造と考えられます。後円部寄りの B 石室は小形の横穴式石室ですが、A 石室同様多くの副葬品が発見されています。

この古墳は米子地域の最盛期の横穴式石室の典型的姿として捉えることが出来、1 号墳に葬られた人は、宗像地域で勢力を誇った一族の中でも傑出した首長であったと考えられます。



A 石室



B 石室